

第14回 ひろしま

「山の日」

県民の集いの
記録

山と海は、つながっている。

2015年6月6日（土）・6月7日（日）開催

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会/中国新聞社/中国放送

はじめに

広島は里山の邦と言ってもいいでしょう。広島の里山は、里、川、まち、そして海ともつながり、多くの恵みをもたらし、命をはぐくんでいます。

人と里山、人と山、里とまち、企業と地域・・・大竹市をメイン会場に広島県内13の市町15会場を結んで、第14回ひろしま「山の日」県民の集いを開催いたしました。

これは、その記録です。

●第14回ひろしま「山の日」県民の集い 「山の日」宣言

広島県の面積のおよそ7割は山です。全国に誇る里山があります。山から湧き出る水は命の源であり、その水が里の稲や野菜を育てています。

山を被う緑の木や草は、新鮮な空気をつくりだしています。

広島の豊かな山で生まれた水は豊かな川となり瀬戸内海や日本海へ注ぎ、魚や貝を育んでいます。

私たちは、6月の第一日曜日をひろしま「山の日」とし
ひろしま「山の日」県民の集いを県内各地で開催し
山の大切さを訴えています。

ひろしまの里山から、山の大切さを理解し行動する人の輪を拡げ、
山がよくなる運動にしていくことを宣言します。

2015年6月7日

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会

会長 伊藤利彦

目 次

1	第14回ひろしま山の日県民の集いメッセージ 林野庁長官 今井 敏	3
2	ひろしま「山の日」のこれまでと、これから	4
3	事業のアウトライン	6
4	記念行事 大竹市アゼリアホール	7
5	各会場の記録	
①	大竹市会場:マロンの里交流館	8
②	東広島市会場:東広島市憩いの森公園	18
③	廿日市市会場:県立もみのき森林公園	25
④	広島市会場:広島市森林公園	27
⑤	広島市会場:広島県緑化センター	30
⑥	三原市会場:県立中央森林公園	35
⑦	庄原市会場:板橋さとやま学びの森	39
⑧	福山市会場:ふくやまふれ愛ランド	41
⑨	三次市会場:酒屋地区憩いの森、ほしはら山のがっこう	42
⑩	呉市会場:野呂山(野呂山高原ロッジ周辺)	44
⑪	北広島町八幡高原会場:八幡高原	46
⑫	尾道市会場:尾道ふれあいの里	49
⑬	安芸高田市会場:神楽門前湯治村	52
⑭	安芸太田町会場:恐羅漢エコロジーキャンプ場	53
6	実行委員	56
7	ひろしま「山の日」県民の集いの歩み	58

第14回ひろしま山の日県民の集い メッセージ

本日、第14回「ひろしま山の日県民の集い」が多くの皆様の御参加のもと、盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

また、6月第一日曜日を広島県の「山の日」と定め、幅広い関係者が参画された実行委員会の企画・運営によって、「ひろしま山の日県民の集い」として、近年では1万人を超える規模で継続して開催されてこられたことに対し、関係者の皆様の努力に敬意を表するところでございます。

こうした広島県を始めとする地域の盛り上がりを背景に、昨年「国民の祝日に関する法律」が改正され、8月11日が「山の日」として国民の祝日に制定され、平成28年から施行されることとなりました。

その意義は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」とされ、美しく豊かな自然を守り、次世代に引き継ぐため、山との深い関わりを考える日でもあります。

本日の「ひろしま山の日県民の集い」が、多くの方々にとって、山に親しみ、山を考える契機となりますよう、また、こうした活動が全国にもさらに波及し、「山の日」制定の意義が広く浸透することを期待するところでございます。

我が国では、「山」の多くが森林で覆われ、「山」と森林はしばしば同じ意味で用いられます。そして、「山の恩恵」とも言える森林の様々な機能は、私たちの暮らしの安全や潤いに欠かすことができません。

こうした「山の恩恵」を国民が持続的に享受できるよう、林野庁としても、森林づくりへの支援はもとより、国民全体で森林を守り育てていく機運が高まるよう、森林環境教育の推進や国有林野の活用などによって、国民が森林に親しむ機会の提供にも取り組んでまいります。

結びに、「ひろしま山の日県民の集い」が今後も多くの皆様の御参加を得て、意義ある大会として益々御発展されますとともに、本日、御参加の皆様の御健勝を祈念いたしまして、開催に寄せるメッセージといたします。

平成27年6月7日

林野庁長官 今井 敏

ひろしま「山の日」のこれまでと、 これから

中越 信和（ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会・アドバイザー、広島大学大学院国際協力研究科・教授）



文字が残す記録は偉大です。おおよそ世界の文明、例えば紀元前のエジプト王国の象形文字であっても解読されればその記述が後世に永遠に残ります。東洋にもそれよりは若いけど同様な文化がありました。中国には紀元前の歴史が精緻な文字（漢字）による記録が残されています。情報が溢れている現在であっても、文字による記述は様々な社会活動を記録する基本です。例えば、マツタケを前にして採集者が満面の笑みを浮かべて写真に写っているとしましょう（私の父親が旧制中学の時、同級生と安芸西条の山で採取したマツタケの山盛りの後列に坐して写っている写真が実例）。写真はその時代の西条のアカマツ林が疎林あり、林床にはわずかにマツの落ち葉を見るに過ぎない、極めて貧弱な林相であることも物語っています。写真記録からはそれが限界です。

残念ながら、この人物たちと収穫物のマツタケに焦点を当てた写真には、周囲の環境が撮影されておらず、また文字記録ありません。さらに現代風というと生態学的測定記録がないため、現在の科学的実体の対象としてのマツタケ山の実態を説明する力もありません。これはむしろ当然かもしれません。当時、マツタケ山が消滅することなど、ほとんどの人が思いも及ばなかったでしょうから。そのような

景観や森林の歴史的変遷を研究することになった者には、とにかく文字記録や対象物件を多く残したいという本能的な行動原理があります。この委員会でも文字記録を残すことを提案し続けています。

今回で14回目となる、ひろしま「山の日」県民の集いも、それまでに出版された計13回の集いの記録と同様に、その活動の概略が報告書としてまとめられました。冒頭に申しあげたように、文字記録を残すことは文明の根幹です。媒体が、紙から電子情報に替りつつありますが、今回は特に8月11日を記念する集会を念頭に、現在の活動を広く理解していただくためにあえて紙媒体の報告書の刊行を行いました。これまでの経験から、電子情報は安易に除去されるのに対し、時代の流れに抗するような紙媒体での刊行は、その意義を理解し、大切にして頂ける皆様が多いと確信しているからです。



大竹市を主会場とした平成27年（2015年）の広島県内の集いは、本報告書を一読されれば判るように大成功でした。これまで「山の日」が提供してきた、深くかつ幅広いプログラムは県内の多くの会場で一般参加を増やすことになりました。各会場の報告をご覧になれば、その多彩なプログラムを一望できます。実行委員会では、山と森林に係ることであれば「すべて良し」として、プログラムを支援しました。多彩であることは、大竹市会場で初めて始まったプログラムがあることでも判ります。最初の東広島市会場以来、次々に提案されたプログラムを、実行委員会では、それが山や森林を結果として大切

にすることにつながるなら常に肯定的に集いのプログラムに加えてきた流れがあります。人間の集団に多様な価値観があることは自明ですし、また対象となっている山や森林も多様な価値を持っています（最近では森林の生態系サービスという用語で表現されます）。

「山の日」が国民の祝日になった今、実行委員会の次の大きな目標は県内の全市町での「山の日」活動の実施です。すでに平成 28 年（2016 年）は世羅町が主会場を設定して頂けることになっています。県の東から西へ、神石高原町、府中市、竹原市、大崎上島町、坂町、海田町、熊野町、府中町、江田島市は再来年からの主会場の候補地に期待されています。これらの市町から、「山の日」の一環として各市町の独特な山や森林を活用することを発案して頂けると幸いです。もちろん、他都道府県であっても、私たちと意志を同じくする団体なら協働をさせて下さい。一緒に山や森林を大事にすることは大歓迎です。

強調させていただきますが、この活動は「山の日」が来年から祝日になることで終わりではありません。今まで、私たちと連携した個人や集団（多くの地元企業を含む）が、かれらの意志を前面に出した活動が実ったことを意味するのは確かです。しかし、一方で山の日活動は、祝日の意義「生活基盤の一つとして山や森林が大事である」ことを理解した国民に、参加型の社会貢献を誘う契機を醸成したと考えています。ですから終わりではなく、「これから」が大事だと考えています。県民の皆様と、県内の素晴らしい山（森林）をまもり、より上手に活用できる時代がついに始まったのだと、実感しています。実に、歓迎されるべきことではありませんか。ここに、いままでともに努力してきた個人と集団にお礼を申し上げると同時に、ご協力頂いた関係各位に深く感謝申し上げます。



事業のアウトライン

1 目的	森林ボランティアや民間が中心となり展開してきた、ひろしま「山の日」県民の集いも 14 回目なる。目標の一つとしてきた、「山の日」が平成 28 年 8 月 11 日より国民の祝日になることもすでに決まった。将来、広島県内全 23 市町で展開できるように広島県など行政も加わった県民参加の森づくり運動として、多くの県民が、この日に、身近な山へ入るきっかけをつくることを目的にする
2 日時	2015 年 6 月 6 日(土) 山の日 記念行事 映画「森聞き」(会場:大竹会館アザレアホール) 2015 年 6 月 7 日(日) 集いの行事 ※北広島市八幡会場は一部 6/6、庄原市会場は 6/14 に実施
3 場所	広島県内 13 市町 15 会場 大竹市会場(マロンの里交流館) 東広島市会場(東広島市憩いの森公園)、廿日市市会場(県立もみのき森林公園)、広島市会場(広島市森林公園、広島県緑化センター)、三原市会場(県立中央森林公園)、庄原市会場(板橋さとやま学びの森)、福山市会場(ふくやまふれ愛ランド)、三次市会場(酒屋地区憩いの森、ほしはら山のがっこう)、呉市会場(野呂山)、尾道市会場(尾道ふれあいの里)、安芸高田市会場(神楽門前湯治村)、北広島町八幡高原会場(芸北地区八幡高原)、安芸太田町会場(恐羅漢エコロジーキャンプ場)
4 総参加者	10,542人 (山の手入れ等参加者 1,132人)
5 主催	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
6 特別協力	ひろしまの森林づくりフォーラム
7 後援	林野庁近畿中国森林管理局、広島県、広島県教育委員会、広島市、呉市、福山市、三原市、尾道市、三次市、庄原市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、北広島町、(公社)国土緑化推進機構、(公社)広島県みどり推進機構、(一社)広島県森林協会、広島県森林組合連合会、ひろしま緑づくりインフォメーションセンター、(一社)広島県山岳連盟、(公社)日本山岳会広島支部、全国「山の日」協議会、NHK広島放送局、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島
8 協賛	西条・山と水の環境機構、(株)ウッドワン、山陽乳業(株)、JA グループ広島、(株)タカキペーカリー、大和重工(株)、中国木材(株)、(株)中電工、マツダ(株)、広島県協同組合連絡協議会、広島信用金庫、広島県信用組合、広島県森林組合連合会、(株)エディオン、尾道商工会議所、神沢精工(株)、クニヒロ(株)、光和物産(株)、山陽工業(株)、しまなみ信用金庫、西日本旅客鉄道(株)広島支社三原地域鉄道部、(株)パブリックス、東広島商工会議所、日の丸産業(株)、ひろしま NPO センター、広島商工会議所、広島市漁業協同組合、(株)広島バスセンター、福山商工会議所、(株)不二ビルサービス福山支店、みずえ緑地(株)、(株)ユアーズ、(株)有斐園、NPO 法人ゆあーず「食」未来研究所
9 助成	ひろしまの森づくり県民税 助成事業 「緑の募金」助成事業 セブン-イレブン記念財団 2015 年度活動助成

記念行事 大竹市アゼリアホール

山の日 記念行事 映画「森聞き」

■参加人数：60人

■担当：実行委員会

■日時：6月6日（土）15:30～18:15

■会場：大竹会館 アゼリアホール

＜プログラムの状況＞

6月6日、ひろしま「山の日」県民の集いの記念行事として、大竹市（アゼリアホール）で映画「森聞き」が上映された。大竹市といえば、水の恵みがあり楮の栽培の適地でもあったことから、和紙の生産が盛んだった。400年の伝統があり、最盛期の大正時代半ばには、市内に1,000軒を越す製紙家があったと言われる。純粋に楮だけで漉かれる大竹和紙は、強くて美しいという特徴がある。その大竹和紙を使った「手描き鯉のぼり」づくりの名人（大石雅子さん）が、今も元気に創作を続けている。この地は、森や水と関わる名人が暮らす地でもある。

こうした背景もあり「森聞き」の上映に当たり、大竹市実行委員会は市民への呼びかけにあわせ、「水と森・・・」という題名の地元ロータリークラブの記念事業で3年前に制作したDVD（約8分）も上映するというアイデアを実行した。2本立て、上映会となった。

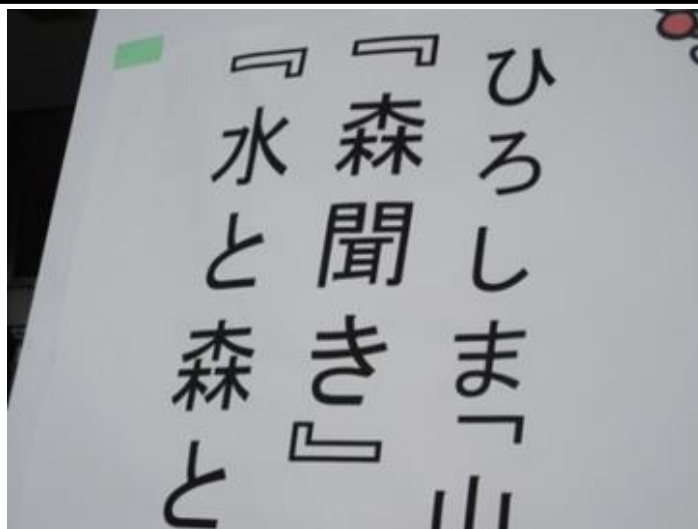
今から17年前、大竹市内の小学生・中学生約200人が、山と海のつながりに想い馳せ市内の山にドンダリの苗木2,000本植えたプロジェクトを記録した映像である。この活動に参加した人は、今、23歳から32歳の大人になっている。

森の名人と高校生のふれあいにより感じる事、どんぐりを山に植え感じる事は、どこかで少しつながっているようにも思う。映画「森聞き」は、聞く事、記録すること、そして感じる事の大切さを、大竹の人たちに伝えたのではないかな。

◎大竹市での上映会の様子に対し柴田監督から次のコメントが届いた。

「感じる事、聞く事、どちらも、若い感性が大きな時間軸で生きる存在と出会ったとき、大きなものを残すと思います。かくいう僕も、大学生時代の聞き書き体験がいまの僕を作っています。」

記録者：畝崎 辰登（実行委員会事務局）



■映画 「森聞き」

監督 柴田昌平

製作・配給 プロダクション・エイシア

協力 第7回森の「聞き書き甲子園」実行委員会

助成 文化芸術振興費補助金



大竹市会場 マロンの里交流館

全体

■参加人数：2,500人

＜プログラムの状況＞

今年のメイン会場は、大竹市だ。名峰三倉岳の麓、すぐそばを清流が流れ青葉に囲まれたマロンの里交流館に会場が設えられた。天候にも応援され、大竹市内などから、家族づれが会場を訪れ、大竹和紙漉体験、竹で水鉄砲づくり、椎茸の菌打ち、丸太切り、木工クラフト、水生昆虫観察、昔ながらの餅つき体験などなど・・・プログラムを楽しんでいた。

また、ステージでもコーラスやブラスバンド演奏、どんぐりトークなど、市民の企画・出演により楽しい催しが行われた。

これまでになく小さな子どもたちが多数で、目当ての体験ブースをめざし芝広場を行きかう可愛い姿が印象に残った。入場者総数は、約 2,500 人。その内、約 1,000 人が体験プログラムに参加。山とふれあい、山を考えるよい機会になった。



▲名峰・三倉岳の麓がメイン会場



▲会場の様子

開会式（オープニングセレモニー）

■参加人数：500人

＜プログラムの状況＞

爽やかな天候の元、小城林勲大竹市会場実行委員長の開会宣言で「山の日」県民の集いが開会した。伊藤利彦会長が挨拶のなかで8月11日を国民の休日とすることが決定し、いよいよ来年から施行されることが報告された。高垣広紀広島県副知祝辞、今井敏林野庁長官メッセージ（代読：富田幸一林野庁広島森林管理署長）、平口洋衆議院議員祝辞、入山欣郎大竹市長歓迎の挨拶の後、平成27年度広島県緑化功労賞の贈呈式が行われ、大竹地区で長年緑化活動をされてきた「玖波二丁目シニアクラブ天幸会」と福山市の「花ネットワークBINGO」に賞状が贈呈された。

「山の日宣言」では地元の栗谷みどりの少年団の7人が「ひろしまの里山から、山の大切さを理解し行動する人の輪を拡げ、山がよくなる運動にしていこう」と力強く宣言し、安全祈願をして里山の手入れなどのイベント体験が始まった。



▲小城実行委員長の開会宣言



▲広島県緑化功労賞贈呈式



▲栗谷みどりの少年団による「山の日」宣言

○歌・劇（栗谷小学校生）



▲自然の大切さをテーマとした劇やみどりの少年団の歌を歌った。

○ブース紹介



▲モーリーが各ブースの紹介を面白おかしく行った。

○吹奏楽演奏（大竹市民吹奏楽クラブ）



▲自然の中での演奏はあまり例が無くとても好評だった。

○山の日コーラス（市内各コーラス団体）



▲市内のコーラスグループから参加者を募り山の日コーラスを行った。大竹市民吹奏楽クラブとコラボしとても好評だった。

○日赤講習



▲日本赤十字社の山田さんが山に関連した講習を行った。
熱中症対策や、蜂や蛇に刺されたりかまれたりしたときの
対処法などとても分かりやすかった。来場者からも質問が
多く出て盛況だった。

○HIPHOP ダンス（ダンスポート大竹）



▲市内で活動しているダンスポート大竹のメンバーがダンスで
会場を魅了した。

○琴演奏（三上社中）



▲三上社中が会場に優雅な琴の音を響かせた。

○フラダンス（ビューティープルメリア）



▲海辺のイメージがあるフラダンスだが「山の日」でも輝
きを見せていた。

○どんぐりトーク



▲小城委員長と山原アナウンサーの二人でトークショウ
が行われ、山などの自然の大切さについて語り、大竹会
場のメインイベントとして会場を大いに盛り上げた。

山の手入れ体験

■参加人数：30人

■担当グループ：佐伯森林組合・大竹市産業振興課
＜プログラムの状況＞

第14回ひろしま「山の日」県民の集い大竹市会場のプログラムを代表する『山の手入れ体験』では、マロンの里交流館裏山を手入れした。この場所は、マロンの里森づくり協議会が遊歩道を整備しており、平成28年度に完成予定である。

当日は晴天に恵まれ、参加された方々は汗を流しながら作業に励んでいた。安全に作業を行うため説明のあと、作業に取り掛かった。

記念にどうぞ！植栽体験

■参加人数：40人

■担当グループ：マロンの里森づくり協議会・大栗林自治会・広島県森林組合連合会
＜プログラムの状況＞

マロンの里裏山にヤマモミジとヤマザクラの植栽体験を行い、記念プレートを設置してもらった。

この場所ではマロンの里森づくり協議会が遊歩道を整備しており、平成28年度に完成予定である。その遊歩道の周辺に植栽を行った。将来的には遊歩道を歩きながら、ヤマモミジとヤマザクラを楽しむようになる。

山の中のヨガ教室

■参加人数：15人

■担当グループ：ヨガ教室チャンドラ
＜プログラムの状況＞

日頃からマロンの里交流館で行っているヨガ教室を、ひろしま「山の日」県民の集いに合わせて開催した。川辺で行い自然の中を感じられるようにした。参加者は、自然の中で行くと気持ち良さが倍増すると喜んでいて。

ひろしま「山の日」 自然観察ハイキング

■参加人数：92人

■担当グループ：大竹市公衆衛生推進協議会
＜プログラムの状況＞

『第14回ひろしま「山の日」県民の集い』のメイン会場が大竹市で開催されることに伴い、同実行委員会からの事業協力要請にもとづき、『山の日』にふさわしい「自然観察ハイキング」を企画した。

参加者全員が、山の日県民の集い開会式にゼッケンを付けて参加した後、出発点に場所を移動して、「てくてくグループ」「ゆっくりグループ」に分かれてスタートした。

参加者全員が自然観察BINGOカードを首にかけ、自然の植物を観察しながら折返し地点に向かった。折返し休憩地点では、冷たい飲み物を提供し、ゼッケン番号抽選会、じゃんけん大会で楽しんだ後、記念写真を撮影してゴール地点へと向かった。

参加者全員が無事ゴールした後は、実行委員会主催のお楽しみ抽選会などに参加し、公衛協が手配したバスで会場を後にした。



初心者のための 三倉岳ハイキング

■参加人数：69人

■担当グループ：大竹山の会・広島県山岳連盟

＜プログラムの状況＞

三倉岳は人気の山で、参加者が52人と例年になく多くの参加者を得て、天候にも恵まれて、ほぼ計画通りに無事三倉岳ハイキングを実施した。9時半から三倉岳駐車場で参加者の受付を行ない、受付時に登山コースの希望を聞いて、班分けとスタッフ配分を行なった。参加者が52人と多かったが、広島県山岳連盟と大竹山の会のスタッフも多く、安全確認も厚く実施できた。お蔭でケガもなく、ほぼ計画通りに実施でき、参加者にも喜ばれた。

A班はAコース経由で、広島県山岳連盟と地元大竹山の会のスタッフが昔の炭焼き跡の紹介や植物観察しながら、ゆっくりと下の岳山頂へ到着。下界や展望を紹介後、展望を楽しみながら昼食を食べた。下山は二等三角点の三倉岳山頂を経由したので、参加者が念願だった登頂を果たして喜ばれた。B班はBコースを、岩場の緊張箇所が多く、緊張が途切れる事が無い様に、安全を確保しながら登った。昼食は、安全な下の岳で摂った。A班と時間差もでき、混雑を避ける事が出来た。下山後は、AB両班合同で閉会式を行ない、抽選会のあるマロンの里へ向かった。

記録者：小田 里子（広島県山岳連盟）



▲三倉岳下の岳展望岩でA班のメンバー



▲三倉岳下の岳展望岩でB班のメンバー

木製マガジンラックづくり

■参加人数：１００人

■担当グループ：小城木材店 大竹青年会議所

＜プログラムの状況＞

釘やのりを使わないマガジンラックのキットを用意し、作成してもらった。木製品の良さを知ってもらえる良い機会となった。



▲マガジンラックの組み立て

木工クラフト体験

■参加人数：１６０人

■担当グループ：もりメイト倶楽部 Hiroshima

＜プログラムの状況＞

木工クラフト体験を行った。木の枝などを使って動物模型等を作成した。



▲木工クラフト体験の様子

手すき和紙体験

■参加人数：６０人

■担当グループ：大竹和紙保存会・森本製作所・大竹青年会議所

＜プログラムの状況＞

大竹市の伝統工芸である手すき和紙の作成を体験してもらった。はがきサイズで作成し記念スタンプを押してもらった。乾かすためにホットプレートを活用した。大竹市の伝統を知ってもらう良い機会となった。



▲すいた和紙を乾かす

ふれてみて！ 川のいきもの観察会

■参加人数：２００人

■担当グループ：環境整備課・広島県環境保健協会
＜プログラムの状況＞

今回、ひろしま「山の日」県民の集いに併せ、川のいきもの観察会を実施した。通常であれば、実際に川に入ってもらい、自分たちの手と目で感じてもらっているが、来場者等の内容が分からないため、今回は、展示という形で実施した。このような形態で行うのは、初めてであり、実際の来場者数の把握が困難であったが、準備していた粗品等がなくなるなど、盛況となっていた。これまでの観察会は、大竹市民等が対象であったが、多くの他市からの来場者もあり、市の自然のPRになった。



▲当日採集した川の生物

竹でつくろう！水鉄砲

■参加人数 ２００人

■担当グループ：産業振興課

＜プログラムの状況＞

竹の水鉄砲のキットを用意し、作成してもらった。作った水鉄砲で的当てゲームを行った。



▲水てっぽうをつくりゲームに興じる子供たち

きってみて！のこぎり体験

■参加人数：250人

■担当グループ：佐伯森林組合

＜プログラムの状況＞

色々な種類の木材をきってもらう事で種類による堅さの違いを体験してもらった。また、木の枝での鉛筆作りや輪切りにした木材を使用したコースターの絵描き体験も同時に行い、多くの方々が参加した。特に木の枝での鉛筆作りは珍しかったのかとても好評だった。



▲丸太切りやコースターづくりを楽しんだ



シイタケ菌打ち体験

■参加人数 100人

■担当グループ：西日本造園・二階堂商事

＜プログラムの状況＞

シイタケの菌打ちを体験してもらった。同時に大竹産のしいたけの試食コーナーも設けた。大竹産のシイタケの美味しさを知ってもらう良い機会となった。



▲シイタケの菌打ちと大竹産しいたけの試食

モーリーを探せ！

■参加人数 200人

■担当グループ：産業振興課

＜プログラムの状況＞

木製のモーリープレートを会場内に隠して、それを見つけてモーリーに持ってきた子供に記念品を渡した。ひろしまの森づくり事業内容及びキャラクターであるモーリーのPRになった。



▲小さな子どもたちで終日にぎわった

お楽しみ抽選会

＜プログラムの状況＞

地元の特産品等が当たる抽選会を行い大盛況だった。



▲お楽しみ抽選会の様子

閉会式

＜ひろしま「山の日」フラッグ、世羅町へ。＞

民・官・学・メディア等で編成の実行委員会による企画運営、そして参加する市町が年に一カ所ずつ増えていく方式。ネットワーク型の事業がひろしま「山の日」県民の集いの特徴だ。閉会式では、大竹市会場の小城実行委員長から次回のメイン会場となる世羅町の代表者へ、「山の日」フラッグが手渡され、田中副委員長の閉会宣言のあと、マロンの里恒例の餅まきで幕を閉じた。

名峰・三倉岳がそびえ、マロン（栗）の里づくりが進められている栗谷地区での集いには、多くの子どもたちが参加した。米、野菜、果物、花など恵みの高原―第6次産業化に力を入れている世羅町での「山の日」は、どのような共感を呼びおこすのか。第15回の山の日の集いへ向けて、歩みが始まった。

記録者：大竹市会場実行委員会事務局



▲「山の日」フラッグ、次回メイン会場の世羅町へ▼



▲ありがとうの気持ちを込めて、紅白の餅まき▼



▲閉会の挨拶 田中副実行委員長



司会はフリーアナウンサーの山原玲子さん。長年アナウンサーとして活躍された経験をもとに楽しいトークで司会いただき、参加者の絆が深まる和やかな雰囲気となりました。

全体

■参加人数：711人

＜プログラム状況＞

梅雨の晴れ間となった6月最初の週末、ひろしま「山の日」県民の集いin ひがしひろしまは、爽やかな風が吹き抜ける中、開幕しました。会場のある東広島市では今年、環境先進都市ビジョンが掲げられ、里地里山保全の取り組みに一層弾みがついた山の日となりました。また、開会式では来賓のご祝辞に加え、林野庁長官からのお祝いメッセージも披露されると共に、祝日「山の日」のプレイベントを8月11日に東広島市で開催予定であることが発表されました。

各プログラムでは、昨年以来マダニの被害が問題となっており直近でも近隣都市で被害が発生していたので、山で活動する行事には服装への注意と共にマダニに対応した虫よけスプレーを配備するなど安全に配慮した運営に心がけると共に、参加者には改めて山の恩恵に感謝した一日になったのではないかと思います。



▲開会挨拶 島 靖英 実行委員長

「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝し、山にふれあって生きる暮らしの中で、持続可能な社会を作ること志向し、山の美しく豊かな自然を守ることで、そこで生み出される山の恵みを、次世代に引き継いでいくことにあります。」と「山の日」の意義について参加者にご挨拶下さいました。

●ご来賓からのご祝辞

ひろしま「山の日」県民の集いが開催されるお祝いに加え、祝日「山の日」制定、ひろしまの森づくり県民税での様々な森づくり活動の実施、東広島市環境先進都市ビジョンの取組など、山の日集いをエネルギーや自然、里地里山保全などの環境問題を考えるきっかけにしてほしいとお話いただきました。



▲祝辞 森光俊樹広島県東広島農林事業所長（左）、
前藤英文東広島市産業部長（右）

お二方には「山のグラウンドワーク」にもご参加いただきました。

また、実行委員会宛に送られた林野庁長官からのお祝いメッセージを、メイン会場では広島森林管理署長が代読され、東広島市会場でも司会が披露しました。



▲東広島みどりの少年団男女キャプテンによる山の日宣言（団長とともに）

東広島みどりの少年団 男子キャプテン平崎隼斗君、女子キャプテン佐々木悠乃さんの二人が、

「ひろしまの里山から、山の大切さを理解し行動する人の輪を拓げ、山がよくなる運動にしていくことを宣言します」と元気に宣言。



▲安全祈願 石井一行 西条・山と水のクラブ会員

山や森に感謝しつつ、怪我のないよう一日を過ごせますようにと、全員で掛け声をあげました。

記録者：船本 昌義（東広島市会場 事務局長）

山のグラウンドワーク

■参加人数：304人

<プログラム状況>

今回の作業地「キノコの森」は、5年前の第9回ひろしま「山の日」県民の集いで手入れした場所です。この5年で低木や下草がしっかり成長し森林の奥が見通せない状態に戻っていました。そこで集いのメイン会場である多目的広場を見下ろせるこの場所を手入れするため300人近い中・高・大学生や社会人とその家族などが、除伐や下草刈り、除伐材のチップ化といった手入れ作業で汗を流しました。

低目の気温と陽射しの少ない天候での作業でしたが、途中休憩も入れながらも1時間も作業を続け、チップ化作業も追いつかない位熱心に伐採と運搬を行ったため、疲れも見えてきたので早めに作業を切り上げました。それでもあっという間に、森林全体が見渡せるほどすっきりした状態になりました。

企業の参加者からは、「一人ひとりの地道な活動が、きれいな水や木、草、土を育むことにつながっていくということが、肌で感じられた。」とか「しっかり手入れをしないとあの綺麗さを保てないことを知りました。」などの声が聞かれました。

なお、午後は「地球温暖化と木質バイオマス」講義、龍王の名水ガイドツアーを実施しました。

記録者：船本 昌義（東広島市会場 事務局長）



▲午前の手入れ終了後の集合写真

■午後の部

参加者：約70人

1. 講演「地球温暖化と木質バイオマス」

佐藤高晴広島大学大学院総合科学研究科准教授（実行委員会運営委員長）の地球温暖化とバイオマス利用についてのお話をみんなで聞いて、里山の活用の意義などについて学びました。



2. 「龍王の名水」ガイドツアー

小倉亜紗美（西条・山と水の環境機構 運営委員
/広島大学平和科学研究センター助教）



▲西条・龍王の名水の解説

●第 14 回ひろしま「山の日」県民の集い in 東広島
に参加して

今年の『第 14 回ひろしま「山の日」県民の集い in 東広島』には、広島大学・近畿大学の学生、西条農業高校の生徒、緑の少年団といった若い世代から、そのお祖父さん、お祖母さん世代の方まで幅広い年齢の方 700 人以上が参加してくださいました。お休みの日にも関わらず親子、家族で会社の社会貢献の一環として参加して下さった方も多く、利害を超えてみんなで山に入り、山を体感し、山について考える機会になっていることを嬉しく思いました。

インターネットで何でも調べられるようになった現代だからこそ、こういった五感を通じた体験をすることは非常に重要だと思います。また、この「山の日」に参加することで、人と人との繋がりが生まれていることにもう一つの価値があると思います。

記録者：事務局（司会）小倉 亜紗美

（広島大学平和科学研究センター助教）



初心者のための登山教室

■参加人数：22人

<プログラム状況>

みどりの少年団の参加を得て、龍王山登山教室を実施する。10 時、参加者全員でストレッチをして、体をほぐして登山開始、マダニ対策で全員長袖・長ズボン、用心のため露出部分に予防スプレーを施す。途中ゴミを拾いながら清掃登山も兼ねる。全員元気に頂上を目指す、途中 1 回小休憩をとり、頂上そばの東屋にまで登る。

そこで『山登りの基本』をテーマにワンポイントレッスンをわかりやすく話す。頂上にて全員で集合写真を撮り、山頂からの市内の景色を思い思いに堪能する。別ルートにて登山口に下山、全員でストレッチを実施して、12 時に解散した。



▲登山の様子



▲山頂での集合写真

記録者：森 茂樹（公社 日本山岳会広島支部）

野鳥観察会 「森の野鳥を探そう！」

■参加人数：68人

<プログラム状況>

みどりの少年団、女性参加者らは、緑深まる山道をめぐり、野鳥の声を耳にしながら、季節の草花、樹木、昆虫などを観察、山への親しみ、動植物への関心を深めた。

「東広島の野鳥と自然に親しむ会」本部前に集合した児童らは、机上に展示されたウグイス、ホオジロなどの巣に、みな興味津々。指導者から双眼鏡の使い方、マムシ、スズメバチに遭遇した際の注意事項を聞いたあと出発。森の入り口でヒヨドリの姿をとらえ、さらに山道を進むとウグイス、ホトトギスの鳴き声が聞こえた。男子児童は、コースの中ほどで出合ったアサヒナカワトンボなどの昆虫やイノシシによる獣道に興味を示した。また、ヤママユを見つけた5人の女子児童は、図鑑を手にした指導者から「糸になる」との話に熱心に耳を傾けた。帰途、ホオジロ、スズメを双眼鏡でとらえることができ、児童らは口をそろえ「楽しかった」と話していた。



▲指導員の説明に興味津々の男子児童



▲ヤママユを見つけた女子児童

記録者：宮田 勲（東広島の野鳥と自然に親しむ会）

森のネイチャーゲーム

■参加人数：午前21人、午後4人

<プログラム状況>

今回は、ジャンケンをしながら色々な落ち葉を探す「じゃんけん落ち葉集め」、昔話を模してお気に入りの交換しながら自然観察する「わらしべウォーク」、森の中でお題の色を探す「森の色合わせ」、親子でカメラマンとカメラに分かれて思い出の写真(?)を作る「カメラゲーム」を行った。落ち葉集めでは10数種類の落ち葉を集め、わらしべウォークでは、桜や梅の実、かわいい葉っぱ、バネのようなツル、丸太など、子供たちのお気に入りの自慢しあった。色合わせでは、森の中にあるさまざまな色を発見した。カメラゲームでは、カメラ役の目の前に、たまたまナナフシがいてみんなで驚いた。



▲ネイチャーゲームを楽しむみどりの少年団たち



▲「じゃんけん落ち葉集め」でたくさんの落葉を集めた

記録者：浅野 敏久（広島県シェアリングネイチャー協会）

森の木工教室・丸太切り体験

■参加人数：95人

<プログラム状況>

初夏の素晴らしい天候に恵まれ、「山のグラウンドワーク」への協力、「丸太切り体験」、「森の木工教室」を担当し、大変気持ちのよい汗がかけました。

親子連れでの参加が多く、悪戦苦闘しながら普段あまり使うことがない鋸を使って丸太を切ったり、本立てや、巣箱を作ったり、「山の日」の思い出作りに少しでも貢献できたかと思います。

この活動を通して、様々な世代の人たちが、山に親しんでもらい、関心を持ってもらえるよう頑張っていきたいと思います。



▲木工教室で巣箱をつくる



▲丸太切り体験

記録者：松浦 尚樹（賀茂地方森林組合）

竹や小枝でつくるランプシェード

■参加人数：42人

<プログラム状況>

「竹を使ったランプシェード」を簡単に作れるように事前に針金を切ってワッカを作り、それにシュ

ロ紐を巻き付けたものを準備しました。6本の竹ヒゴをワッカの周囲に均等に差し込んでランプシェードの足を作るように子どもたちに指導しました。上部を紐で結わえてランプシェードの骨組みを作り、竹ヒゴとシュロ紐・針金がずれないようにホットボンドで固定しました。この骨組みにボンドを塗り、半紙を貼り付けてランプシェードの形が出来ました。セロファンに型紙（モミジなどの葉っぱ）を当てて名前ペンで縁取りし、線に沿って切ります。葉っぱのセロファンを貼ったり、マジックで絵を描いたりして完成です。いろいろな形にセロファンを切って貼りつけ、色々個性ある作品が出来ました。

「みどりの少年団」の参加者は時間をずらして参加してくれたので、製作指導が上手く出来た。親と一緒に参加した子どもも多く、保育所園児も上手にハサミを使ってつくる事ができた。保護者もなるべく子どもたちに作らすように指導してくださいました。イベント情報を見て広島市から参加した親子連れも、各ブースを回っていろいろ体験し楽しい一日でした。持って帰ってから夜には、ライトをつけて楽しもうと話をされていた。



▲セロファンをモミジの形に切り抜く親子



記録者：幾田奉文（日興苑遊歩会）

ハーブ石けんづくりと 野草茶のテイスティング

■参加人数：53人

<プログラム状況>

私たちは細かくした石けん素地に、ラベンダーの煎液と蜂蜜、好んでミントとラベンダーの精油を手の温もりで練りこんでつくる手ごね化粧石けんを作りました。

野草茶のテイスティングは5種類です。子供たちのつくるいろんな型の石鹸、少女のラベンダーをかいだ時のうっとりとした表情、意を決して飲んだ「カラスノエンドウ」のお茶のおいしさにすっかりはまって、「甘かった～」とテイスティングメモに効能等もしっかり書き込んでいた少年、可愛いおしゃべりや大人たちの昔話と共に、私達も癒されています。強くない日差しと心地よい風の中、無事楽しく終了出来たことに感謝！



▲石けんの素を練り込む 右上:ラベンダー



▲野草茶のテイスティングを体験する親子

記録者:高見 京(憩いの森ハーブ研究会)

ペレットストーブの実演展示

<プログラム状況>

今回も、ペレットストーブ2台を持ち込み、実演展示いたしました。

ブースには多数の参加者の方や、一般の公園利用者の方にも見ていただきました一つ、ペレットストーブを認知していただけたのではないかと思います。

開会式では、東広島市の前藤産業部長が、市の小学校全教室にペレットストーブの導入をしますと発表されたり、市の取り組みを発表されたりと、これからの東広島市が楽しみです。引き続き、ペレットストーブ屋も木質バイオマスエネルギーの普及に頑張っていきます。



▲ペレットストーブと展示専用車両



▲ペレットグリル「きりんさん」を囲む見学者

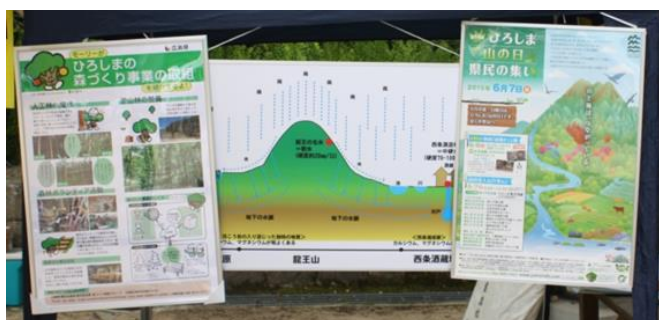
記録者:山野井 重典(ヤマノイ株式会社)

西条農業高校の展示

西条農業高等学校の学科の紹介・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の研究内容の紹介



ひろしまの森づくり県民税 「ひろしまの森づくり事業」コーナー



同時開催「みどりのともだち “こけ田んぼ”づくり」

■参加人数：42人

<プログラム状況>

今年で3年目、賀茂泉酒造さんとの酒米で苔玉をつくるみどりのともだち“こけ田んぼ”づくりを梅雨の合間の快晴の空の下、本日開催いたしました！

山の恵みを受けて作られる米、そして日本酒というつながりを強く感じる企画として今回特別に「山の日」である6月7日にサテライト会場である東広島市の憩いの森公園で開催しました。

みどりのともだち“こけだま”に酒米“山田錦”の苗を植え、秋の実りの季節まで自宅で育てます。酒米で苔玉を作り、秋の収穫まで大切に育てる企画です。予約していただいた方他、当日飛び入りもあり、40人の方に参加していただきました。

今年も個性あふれる楽しいみどりのともだちがたくさんできました。



▲苗を植えた土だんごを苔で覆います。



▲いろいろな“こけ田んぼ”ができました。

記録者：和田 徳之（みどりのともだちラボ）

前垣 壽宏（賀茂泉酒造㈱）

全体

■参加人数：1,800人

<プログラム状況>

曇り空のもと、『第14回ひろしま「山の日」県民の集い in はつかいち』は参加者1,800人（公園利用者含む）で開催した。

“森に光を！”の合言葉で展開されたこの日のプログラムは、JRふれあいウォーク、森のネイチャーゲーム、親子でピザを楽しむ会、魚のつかみどり、森のクラフト教室、森のつみ木広場、薪割とドラム缶炭焼き体験、ポニーと遊ぼうなど11件のプログラムと森での楽しみとして、「けん玉の実演と販売」、「フルートの演奏」など別プログラムもあり、盛りだくさんでした。

午前10時に開催された開会式では、櫻井実行委員長の開会挨拶に続き、林野庁今井敏長官のメッセージ代読のあと、メインイベントの「山の日」宣言は、広島修道大学生の環境ボランティアを代表して山口雄士さんと、渡辺侑花さんの二人が力強く宣誓した。締めくくりは阿品の森サポータークラブの渡辺佐織さんが作業場の注意点を発し、安全祈願の「どんぐり！ころころ！」を力強く三唱して式典を終了した。



記録者：梅田 斉（一般財団法人もみのき森林公園協会）

「森に光を！」を合言葉に森林整備

■参加人数：120人

<プログラム状況>

“森に光を！”の合言葉の森の手入れは、広島修

道大学の学生ボランティアが中心となり、一般参加者を含めて参加者総勢120人が、ヘルメット姿に腰ノコをぶら下げて、6班に分かれてキャンプ場内近くの班分けしてある森に移動し、森の手入れを実施した。



▲森の手入れ 綺麗な森になって感心、感心



▲萌芽した木の余分な萌芽幹を切るぞ～



▲カズラ類（木生のつる植物）も切っておくよ！

開会式会場を取り巻くイベントブースでは、スタッフが朝早くから準備してきた商品や体験行事の材料を並べ、各種の体験行事を実施し、好評を得た。



▲地元の新鮮野菜の販売と森の小物を利用したの体験コーナー

この日、もみのき森林公園で行なわれた森林の多様性に関する体験活動は、次のとおりです。

- 森のコンサート(けん玉、フルート) 参加者多数
- 新緑のもみのき森林公園 参加者 6人
- 森のネイチャーゲーム 参加者 43人
- 森のつみ木広場 参加者 74人
- リュールシロフォンづくり 参加者 27人
- クラフトづくりコーナー 参加者 29人
- 薪割とドラム缶炭焼き体験 参加者 多数
- チョウザメの鑑賞 参加者 多数

ツリークライミング

■参加人数：22人



▲大丈夫だよ安心して登ろう

魚のつかみどり

■参加人数：99人



▲ちょっと水が冷たいね？

ポニーと遊ぼう

■参加人数：59人



親子でピザを楽しむ会

■参加人数：71人(26組)



全体

■参加人数：507人

＜プログラム状況＞

当日は、梅雨の中休みの晴天でレクリエーション日和の良い天気でした。9時半に芝生広場において「もりメイト倶楽部 Hiroshima」の砂原秀年さんによるひろしま「山の日」宣言を行い、1日の盛況と無事故を祈って開始しました。開催したイベントは、フォレストクラブ森守の協力を得て行なった「グリーンアドベンチャー」、広島市シェアリングネイチャーの会のトレーナーによる「森のネイチャーゲーム」、もりメイト倶楽部 Hiroshima 運営の「森林公園内の親子森林管理イベント「山の手入れ」、公園主催の「スタンプラリー」の4つで、各々のイベントとも当森林公園の特質を生かしたものでした。「グリーンアドベンチャー」は管理センターをスタートとゴールにして森林公園内を18問のクイズを解きながら親子で楽しんで頂きました。「ネイチャーゲーム」は、木陰に入って自然の中でいろんなゲームをしていただきましたが、特に「森の美術館」は日頃見慣れた樹木や葉でもそこに紙の額縁を置くだけで絵になることが分かって「小さな感動」でした。「山の手入れ」は第2駐車場横の森林内で行いました。初めてノコギリを持った子どもさんからマイノコギリを持った子どもさんまで様々な家族が一所懸命に木を切っていました。「スタンプラリー」は芝生広場周辺のポイントを探してスタンプを押して景品のプレゼントをゲットされていました。そして、スタッフの尽力と参加者の協力を得てすべてのイベントが滞りなく進み16時のイベント終了まで、広島市森林公園での1日を楽しく有意義に過ごしていただきました。



▲「もりメイト倶楽部 Hiroshima」砂原秀年さんによる
ひろしま「山の日」宣言

記録者：桑田 莊一郎(広島市森林公園)

親子森林管理イベント 「山の手入れ」

■参加人数：41人

＜プログラム状況＞

芝生広場に参加者全員が集まり、森の働きや現状について楽しく学んだ後、ヘルメットと腰ノコを装着し、3班に分かれて近くの森へ移動しました。大きな木や小さな木を保護者や指導者の手助けを受け、額に汗を流しながら次々と切り倒して行きます。森の中は次第に明るくなり、元気になった森が広がって行く姿を見て子ども達も頑張ったことを実感したと思います。

休憩中は木の名前を学んだり年輪の数を数えたりしたことで知識も広がり、今日の体験を通じて森の大切さを理解すると共に、全員怪我なく無事終了することが出来ました。



▲親子で熱心作業をされていました

記録者：砂原 秀年(もりメイト倶楽部 Hiroshima)

森のネイチャーゲーム

■参加人数：60人

＜プログラム状況＞

- ① 「ノーズ」は、ある生き物のヒントからその生き物を推測していくことで、参加者は興味津々でした。生き物を想像する楽しみを体験していただきました。
- ② 「私は誰でしょう」は、背中に付けられた生き物の特徴などを周りの人たちに、クイズのように質問しながら当ててもらいました。質問を考えることも参加者には楽しかったようです。
- ③ 「葉っぱちゃん集まれ」は、一枚の葉っぱの色や大きさなどの特徴を元に、仲間集まりをしました。一枚の葉っぱを注意深く見たことがなかったと言う参加者の声でした。
- ④ 「森の美術館」は、自然の中の美しいものを探し、そこに額縁を置くだけでギャラリーになります。参加者は個性あふれる作品をカメラに収めていました。

活動の後、おみやげにドングリの顔でマツボックリの体に毛糸を巻いた羊を作り持って帰ってもらいました。今回、参加された皆さんは、ネイチャーゲームの体験が初めてのようでしたが、特に子どもたちが興味を持って参加し、まじめに取り組んでもらえた事がよかったと思います。また少しですが自然と友だちになってもらえたような気がしました。



▲ノーズ（大人も子どもも一所懸命）



▲私は誰でしょう？（好きな動物かな？）



▲森の美術館（さあ、どこにしよう？）

記録者：森垣 夫査子(広島県シェアリングネイチャー協会)

スタンプラリー

■参加人数：267人

＜プログラム状況＞

芝生広場周辺でスタンプラリーを実施しました。コースは、芝生広場中央を受付とゴールとして、芝生広場－メルヘンの森－見晴し台－の計8か所に目印を設置。スタンプは近くに隠しておき、探して押してもらいました。広い園内を探索しながら楽しく散策していただきました。全部押した方にスタンプラリー賞として景品を配布しました。晴天に恵まれ80組267人の方が参加されました。



▲受付に集まる子どもたち



▲スタンプを見つけて駆け出す家族連れ

記録者：飯田 真三（広島市森林公園）

グリーンアドベンチャー

■参加人数：123人

＜プログラム状況＞

本コースは「管理ボランティア フォレストクラブ森守」が中心となって5年前に整備されたもので、森林公園内をクイズラリー方式でトレッキングできる常設コースです。

延長2,150m、標高差150m、雑木林、人工林、モミジ植栽林、溪流園路、つり橋など変化に富む園内のコースに問題を18問設置してあります。回答用紙を兼ねた探検地図は ver.5 を重ねるほどの、当公園の人気定番イベントのアイテムでもあります。

この日は梅雨の中休みの心地よい青空の下で、参加者34組123人全員がゴールされました。参加者には、当公園オリジナルの記念品(押し花入りのしおり、ドングリのフォトスタンド、竹のかぐや姫)を、さらに成績優秀者(これは子ども限定)には、昆虫の絵

柄缶バッチ、竹とんぼ、竹風車などをプレゼントいたしました。



▲ゼッケンと地図を持って準備 OK！ さあ出発だ！



▲GAV 問題 13 正面に見える街はどこでしょう？



▲お疲れ様です無事ゴール！ ただいま採点中。

記録者：牟田口 努（フォレストクラブ森守）

全体

■参加人数：900人

＜プログラム状況＞

天候が心配されたが幸いに降雨はなく、新緑薫る中、午前10時、正本 大実行委員長の挨拶、地元福田町老年会（福寿会）児玉会長と東県議会議員（安佐北区選出）の来賓祝辞の後、「可部南グリーンズ緑の少年団」による「山の日」宣言で開会しました。

（来園者、約900人）

開会式終了後、園内2箇所では森林ボランティア「ふれあい湧」「ひろしま人と樹の会」の指導の下、「さくらの森」周辺で白木愛山会と三井ボランティアグループ他、合わせて25人が「山の手入れ」、集いの広場周辺の山林では「可部南グリーンズ緑の少年団」40人による除伐、間伐が行なわれた。（森林整備参加者合計65人）

また、集いの広場では地元福田町有志24人による西洋シャクナゲの苗木の植樹を行った。なお、植樹終了後に「山の日」協賛グランドゴルフ大会も盛大に、開催されました。

レストハウス前広場では「モーリー・スタンプラリー」、「森のネイチャーゲーム」、「ノルディックウォーク体験会」、「木工にチャレンジ」「紙ヒコーキ飛ばし」、「木登り体験」、「丸太切り体験」と計7つの参加型プログラムを準備（参加者253人）また、森のコンサートとして、午前、午後各1回「箏（コト）・サクソアンサンブル香音（カノン）ひろしま」の演奏もあり、みなさん、それぞれ楽しんでおられました。



▲開会式 正本 大 実行委員長あいさつ



▲山の日宣言



▲森のコンサート

記録者：行正 高成（広島県緑化センター）

木工にチャレンジ

■参加人数：25人

＜プログラム状況＞

テント内の机に展示された「くまさんペンダント」や「小鳥」などの見本を見て立ち寄った親子連れで満席になる時もあり、自然素材を活用しての木工クラフトにみなさん熱心に取り組んでいました。

くまさんペンダントの場合、参加者は、まず自分で材料を選び接着剤で目、鼻、口、耳を顔のベースとなる丸い木片に取付けます。接着剤が乾いたら吊り下げ用の金具をねじ込んで完成です。

記録者：行正 高成（広島県緑化センター）



▲小鳥づくり



▲くまさんペンダントづくり

丸太切り体験

＜プログラム状況＞

丸太切り用には、スギの木1本とヒノキの木1本を各々木の枕にカスガイで固定して待機しました。低学年の参加者には指導者が最初に少しノコ目を入れてから切り始めてもらいました。子供が大汗を掻きながら頑張る姿に両親も、指導者も声援を惜しまず、切り終わると拍手喝采。子供は汗を拭きながら達成感で満足そうでした。



記録者：行正 高成（広島県緑化センター）

森のネイチャーゲーム

■参加人数：59人

＜プログラム状況＞

今回は、3人体制で「ウッドボーリング」（直径10cm長さ25cmの丸太を数本並べボールを転がして倒すゲーム）と「ブンブンコマづくり」（事前に用意した長方形の竹片（2か所に糸通し用の穴をあけたもの）に色づけし糸を通せば完成）とバンブーダンスセットを準備しました。

「ウッドボーリング」は幼稚園児から小学校高学年児童まで大勢の子供さんが何度も挑戦していました。「ブンブンコマづくり」も人気で好みの色を塗りブンブン回して喜んでいました。自分で物を作る楽しさを分かってもらえたことでしょう。

バンブーダンスは大きな音が出るため、音楽演奏の妨げになるので、残念ながら中止しました。



▲ウッドボーリング



▲ブンブンコマづくり

記録者：住吉和子（広島県シェアリングネイチャー協会）

折り紙ヒコーキとばし

■参加人数：51人

■担当グループ：ふれあい湧

＜プログラムの状況＞

芝生広場で実施した「折り紙ヒコーキ飛ばし」には、大勢の子供たちが、挑戦してくれました。丁寧に折らないとうまく飛ばない為、決められた飛行距離になかなか届かない子もいましたが、諦めずに頑張っていました。お父さん、お母さん達も昔を思い出して一緒に楽しんでいました。子供たちは景品引換券（アイスまたは綿菓子）をもらって大喜びでした。



記録者：行正 高成(広島県緑化センター)

木登り体験

■参加人数：28人

＜プログラムの状況＞

今回木登りの対象としたのは、多目的広場の奥にある樹高約7mのクスノキです。これまでと同様に、墜落時の安全対策として、子供たちにはハーネスを着用し、地上5m程度に設置した命綱で確保しながら木登りを行ってもらいました。

単に木に登ってもらうだけでなく、木の上から眺められる景色の感想を言ってもらい、クスノキをじっくり観察してもらいました。

葉を一枚ちぎってもらい、クスノキ特有の香りのかいでももらいました。木から下りた時の子供たちが見せた笑顔を見ると、緑と触れ合うことの楽しさ、自然の美しさを体感してもらうことができたと感じました。



記録者：小林 俊幸(広島県緑化センター)

モーリー・スタンプラリー

■参加人数：49人

＜プログラムの状況＞

モーリースタンプ台をレストハウス前（ヤマボウシ）、芝生広場（カルミア）、管理事務所横車庫上（センダン）の3カ所に設置しました。3カ所にはそれぞれ花が咲いていたのでスタンプラリーの参加者には充分楽しんでいただいたことでしょう。スタンプを押して戻れば、花苗がもらえるということで、多くの親子連れが挑戦していました。



記録者：行正 高成（広島県緑化センター）

ノルディックウォーク体験会

■参加人数：12人

■担当グループ：オール・オン・スポーツ
＜プログラムの状況＞

ノルディックウォーキングは、体力づくり、スタミナアップ、減量などにとても効果的で、上半身をしっかり使うので、肩や首のコリの解消などにも有効とのことで年々参加者が増加しています。

最初に成り立ちとその歩き方、ポールの使い方など基本的な事項について説明がありました。基本動作を十分練習した後、レストハウス前を出発。約1時間半、園内をめぐるウォーキング体験会でした。



▲準備運動



▲ノルディックウォーキング体験

記録者：行正 高成（広島県緑化センター）

山の日記念植樹及び協賛 グランドゴルフ大会

■参加人数：24人

■担当グループ：広島県緑化センター（植樹）
東区福田町内有志（グランドゴルフ）

＜プログラム状況＞

今回の記念植樹は「集いの広場」通路横に西洋シャクナゲ高さ1.2m位の立派な苗を、1人1本ずつ植樹してもらいました。

まず直径50cm位、深さも同じ位の穴を掘って頂き、堆肥やヤシガラ活性炭をたっぷり入れて、良く混ぜて再度植え床の穴を整備してシャクナゲを穴に入れ周りの土と堆肥の混ざった土を入れて周りを皿のように盛り上げて木の周りに水が溜まるようにし

て頂き、植樹を終えて全員で集合写真を撮った。

植樹終了後に行われたグランドゴルフ大会は、福田地区も小河原麻下地区も別のグランドゴルフ大会があり当初予定していた参加者の大半が参加できず、福田地区の有志24人で2ゲームが行なわれました。ゲーム終了後レストハウス前で12時30分から、地元福田町老人会会長の児玉吾郎さんと広島県緑化センター指定管理者代表の正本大社長を交えて表彰式が行われました。



▲植樹の様子

記録者：廣瀬 健(広島県緑化センター)

山の手入れ

■参加人数：25人

＜プログラムの状況＞

今回も白木愛山会の方19人を中心に三井ボランティアネットワークから4人、一般の方2人の参加があり、指導者2人態勢で、さくらの森の手入れを行なって頂きました。平素から山の手入れには慣れておられるため、山の周りも明るくなりすっきりした状態になりました。

作業終了時のチェックで、女性の方1人のズボンにマダニがついており取り除いた。他の方には異常はないようだったのですが、指導者の1人が帰宅後、背中をマダニに噛まれていることが判明し病院で治療を受けられました。作業にあたっては安全対策とマダニ対策が重要であると再認識いたしました。

記録者：廣瀬 健(広島県緑化センター)

森を守ろう 間伐・除伐

■参加人数：40人

＜プログラムの状況＞

今年も可部南グリーンズみどりの少年団から、役員や保護者を含めて総勢40人の参加をいただき、開会式での「山の日宣言」も元気に行ってくれました。

その後移動して「集いの広場」下側山林でひろしま人と樹の会の2人の指導を受けて間伐・除伐を行った。平素からソフトボールの練習や試合をしていると、手足を鍛えており、上手に木を倒して、処理していた。怪我も無く終了しましたが、汗だくになっており、大変お疲れさまでした。



▲除伐・間伐

記録者：廣瀬 健(広島県緑化センター)

全体

■参加人数：1,500人

＜プログラム状況＞

6月7日、中央森林公園センター前広場で第14回ひろしま「山の日」県民の集い三原市会場が開催されました。この日、メインの「里山の手入れ」と木の文化体験コーナーでは、「チェーンソーアート実演ショー」「木工・クラフト体験コーナー」「丸太切り大会」「森のネイチャーゲーム」「子ども体験コーナー」「森のコンサート」「協賛グループの展示即売会」「ポニーと遊ぼう」「錦鯉の展示コーナー」の9種類のプログラムが実施されました。

当会場の特色は地元関係者をはじめ新規企業グループの参加があったこと、「2015年ミスやっさ三原」の参加があったことです。

後藤副運営委員長の開会宣言では、今日は里山との対話を十分楽しんでもらいたいとのあいさつで幕を開けました。祝辞は、三原市長天満祥典さんにいただき代読を三原市経済部長 山口秀充がされ、来賓紹介では出席いただいた尾道農林事業所長・広島県自然環境課長・三原市議長・賀茂地方森林組合代表理事組合長・中央森林公園協会理事長の紹介を行いました。

続いて、山の日宣言は中央森林公園協会石丸理事長が宣誓を行いました。

メインの「里山の手入れ」には83人の参加があった。参加者は4班に分れて森林ボランティアの指導で里山の手入れに取り組みました。参加者はヘルメットを付けて、下草を刈ったり、除伐を行い、運び出し粉砕機でチップ化（堆肥用）を行いました。約2時間の作業でしたが0.5haの里山が明るい林に再生した。

午後からは、森のコンサートや各種プログラムの行事に一般参加者が加わり、お祭の雰囲気最高に盛り上がり、多くの家族連れで終日賑わいました。（1,500人）

山や森の大切さを理解し行動する人の輪を拡げていくきっかけができた1日となりました。

記録者：藤田 義弘（三原市会場実行委員会事務局）



▲天満市長祝辞 三原経済部長代読



▲来賓者席



▲開会式式典



▲2015年ミスやっさ三原のPR

里山の手入れ

■参加人数：83人

下草刈り除伐作業

切った木は運び出しチップ処理（堆肥）しました。



木工・クラフト体験コーナー



森のネイチャーゲーム



チェーンソーアート実演ショー

■参加人数：見学者多数

チェーンソーアート実演ではロックビルダーの西田和弘さんに鷹を製作してもらいました。



森のコンサート

入野篁太鼓・オカリナ・ギター演奏でお祭を盛り上げました。



▲オカリナの演奏



▲入野篁太鼓



▲入野篁太鼓

協賛グループの展示・即売会

錦鯉の展示



▲ニシキゴイ



▲即売会場

地元産品展示・即売コーナー



ポニーと遊ぼう



丸太切り大会



「本大会行事に以下のご協賛を頂きました。」

協賛者（順不同）

2口 賀茂地方森林組合

1口 (株)赤石硝子建材、勝村木材(株)、山陽建設(株)
しまなみ信用金庫、新宅建設(株)、尾三地方
森林組合、(有)福島植物園、三原郷心会、
三原商工会議所、三原臨空商工会、
(株)みどり商会、アカリ工業

飲料水 山陽乳業(株)



全体

■参加人数：150人

＜プログラム状況＞

庄原会場は昨年より諸般の事情により遅らせて実施することとなり、6月第2日曜日の6月14日に開催することとしました。

「板橋さとやま学びの森」を会場に、「山の日」県民の集いを実施しました。心配だった雨も前日の準備段階から一滴も降らず、山の中で快適に過ごすことができたことは、関係者一同の喜びでもあります。

昨年から加わってくれた、県立広島大学庄原キャンパスの学内サークルである「さくらプランニング」のメンバーたちとも連携が取れてきたので、機動力が増した感じを受けました。ただし、指示がないと動かない学生も居たりして、次回の課題の一つも見えてきました。

毎年同じ会場で、例年同様の企画を実施することの難しさを感じています。実は、今年10月18日に学びの森で、実験的に木切りなどのゲームを入れた婚活を実施することが決まりました。そして、毎年、地元の板橋小学校6年生が板橋一心太鼓を披露してくれていますが、来年は、地元の敷信（しのう）みのり保育所の園児も楽しめる企画をと考えています。

来年は是非とも、色々な団体を巻き込んで、山に入ってもらふ企画を考えていきたいと思います。ちなみに来年は、婚活グループとの合同企画も考えています。



▲開会式での太鼓の演奏

記録者：はやし 高正（板橋さとやま倶楽部）

森で体験しよう （窯から炭を出す作業）

■参加人数：14人

＜プログラムの状況＞

今回の炭は、火を止めるのが少し遅れたみたいで、歩留まりが5割ほどでした。しかし、炭自体は上質でしたので、参加した人たちも、「きれい」と喜んでいました。



里山の手入れ

＜プログラムの状況＞

今回初めて、参加申込みゼロでした。庄原会場だけが14日開催だったからゼロだった訳ではなく、恐らく、他の会場でも相当に少なかったのではないかと思います（はやし、私見）。

（中越追記）「今までの総計では、参加者の1割程度が里山の手入れに参加しています。少ないとは言えません。今回呉市会場では75%も参加しています。」

里山トライアスロン

■参加人数：15人

＜プログラムの状況＞

昨年と比較すると参加者自体は少なかったのですが、今回は、競技という雰囲気が伝わってきました。若者でないと難しい競技ですので、子どもバージョンや、高齢者バージョンも考えて欲しいという要望が出されていました。間違いなく、庄原会場の定番になってきています。



▲ロケットストーブに材料を入れてマッチで火をつける
競技



▲薪割り競技

森のクラフト教室

■参加人数：25人

＜プログラムの状況＞

板橋一心太鼓の生徒たちが、演奏が終わるとクラフト教室に行って楽しんでいました。

自然観察会

■参加人数：午前の部14人 午後の部 中止

＜プログラムの状況＞

今回で連続5回目となり、山の日の定番となった感じがします。講師の伊藤先生の人柄もあるのですが、優しい語り口に、物語を聞いているのではと錯覚するほどだったと感激された参加者もありました。



記録者：はやし 高正(板橋さとやま倶楽部)



全体

■参加人数：80人

＜プログラム状況＞

第14回ひろしま「山の日」県民の集いを、6月7日(日)に《ふくやまふれ愛ランド(福山市赤坂町)》にて開催しました。

福山市会場での開催も9回目を迎えたこともあり、来場者も定着し山に対する意識も高く、盛り上がりを見せています。キーワードである「山に親しむ」を全面にアピール、地元を中心として呼掛けをしたこともあり、当日の参加者は80人余りになりました。山や森の大切さの理解を得て、県民の輪を広げる目的は達成出来たものと確信しています。

開会式では、福山会場関係者を代表して中根 寿治様より声高らかに開会宣言をして頂きました。開会挨拶に続いて、「山の日宣言」を地元の若者を代表して坂口雄也様により大変力強い宣言をして頂きました。

続いて、内海 康仁実行委員長がご挨拶。挨拶の中で平成28年8月11日に施行の「山の日」についての報告も有りました。

セレモニーの最後に全員でラジオ体操を行い、今回のメイン事業である「山のグラウンドワーク」への参加に備えました。

「山のグラウンドワーク」への参加者は50人余りでした。広島県東部森林組合の方で、植樹箇所目印をして頂いたこともあり非常に助かりました。植樹(イロハモミジ)、里山の草刈や樹木の手入れ作業等を実施しました。

最後に、ひろしま「山の日」県民の集いが盛会で充実した1日で終わることが出来たことは、参加者及び運営へご協力いただいた数多くの関係者の方によるもので有り大変感謝致します。



▲内海康仁実行委員長あいさつ



▲開会式の様子

記録者:赤木 茂(福山市会場実行委員会事務局長)

山のグラウンドワーク

■参加人数：50人

＜プログラム状況＞

開会式終了後は、ヘルメット、鎌及び手袋を各自に渡した後、作業内容・注意点等の説明をしました。その後、会場近くの山林内(D遊歩道沿い)に移動して植樹(手入れ)を実施しました。

今年は、「イロハモミジ」を植樹しました。植樹場所に目印をしていたこと、また指導者からの指示した通りに土の踏み込みも出来ていたので来年の成長が大変楽しみです。

当日は晴天に恵まれ、参加者との共同作業にて充実した1日でした。



▲「イロハモミジ」の植樹風景

記録者:佐藤 元則(広島県東部森林組合)

全体

■参加人数：150人

＜プログラム状況＞

ひろしま「山の日」県民の集い in みよしを、三次市東酒屋町の「酒屋地区憩いの森」会場において開催しました。森の手入れでは、指導者のサポートにより安全に注意し、初めて手にしたノコギリで木を切り倒したり、切った木や枝を運び出したり、チップパー機で粉碎したりして、森林整備を実体験しました。また、酒屋地区自治会連合会による竹弓矢や竹トンボづくりなどの森の工作コーナー、馬洗川自然塾によるツリーハウスを利用した木登り体験コーナー、シェアリングネイチャー協会によるネイチャーゲームなど、森林での遊びを親子で楽しんでいただきました。お昼には、大自然の中で地元のJA三次女性部の皆さんの手作りによる特製カレーライスが振る舞われました。参加者は様々な体験を通じて、森林にふれあい、体感することで有意義な1日となりました。

記録者：井上 直樹（三次市産業環境部農政課）



▲開会式



▲森の手入れ



▲森の手入れ



▲チップパーシュレッダーで粉碎処分



▲竹細工で弓づくり



▲木登り体験でぶらんこ



▲木登り体験



▲ネイチャーゲーム



▲木登り体験



▲木工クラフト



▲カレーライスで昼食

全体

■参加人数：190人

<プログラム状況>

森の中に我が物顔に密生している竹の伐採。伐採した竹で、一輪挿しを希望者に一輪挿しの作り方を講習。道具は100円カッターとのかぎりで短時間に出来上がることをモットーに。

○前日準備 会場案内看板5枚、「山の日」幟5本を道路に設置してムードを盛り上げた。グラウンドの「山の日」テント（2張）前に1～4班 ネイチャーゲーム班 檜の丸太切り班がそれぞれ整列。演題の横に郷原の有志から寄贈された沢山の花で会場が飾られた（今年で連続7回目）

○参加者 三菱日立パワーシステムズ、（特非）ゆあーず「食」未来研究所、郷原有志、中国木材、サポート・トレッキング・グループ、呉市役所、もみじ銀行、他

○開会式 中国木材の橋本氏の司会で開催

○開会挨拶 実行委員長 堀川保幸（中国木材株式会社会長）：九州に出張のため、林 尚哉氏が代読

○「山の日」宣言 副実行委員長 佐藤一教氏（三菱日立パワーシステムズ呉 エコークラブ会長）

○農林関係に造詣の深い宮政利広島県会議員から「山の日お祝いメッセージ」を司会者が披露

○安全祈願 運営委員長 宮岡泰久（サポート・トレッキング・グループ会長）

式典後 参加者全員でヘルメットを着用し、鋸を持って班ごとに森へ移動

ネイチャーゲームと檜の丸太切り班はそれぞれ森へ移動（48人を半分に分けて2班）



▲開会式 堀川 保幸 実行委員長のあいさつ（代読）



▲開会式の様子



▲山の日宣言

記録者：宮岡 泰久（サポート・トレッキング・グループ）

山のグラウンドワーク

■参加人数：142人

<プログラム状況>

森の中に侵入している竹の伐採・搬出

各班に2～3人の安全管理人（中国木材社員）を配置して怪我が起きないように細心の対策を講じた。竹が茂って鬱蒼とした森が見る見るうちに切り倒されて、あかるい広い空間に変わっていきました。竹の長さは意外と長く、うっかりすると離れたところまで届きました。竹の直径は腕の太さ位で、それほど大きなものではなく素人には比較的扱いやすいものでした。伐採した竹はチップパーマシンの周りに集め、機械にかけて粉碎。昨年の「山の日」で伐採した所にチップパーマシンを置いて、竹の運搬をできるだけ少なくなるように工夫。伐採し明るくなった方向からひんやりとした風も吹いて汗を飛ばしてくれた。終了後、有志3人で夕方までマシンを稼働。雨のため二日後再度稼働して粉碎作業を完了。



▲森の中から竹を伐採し搬出する参加者



▲森の中から竹を伐採し搬出する参加者

記録者:宮岡 泰久(サポート・トレッキング・グループ)

一輪挿しの製作

午前11時過ぎ伐採作業を終えて、開会式の行われた会場に戻り、竹で作る「一輪挿し」づくりを皆で体験した。

初めに、島津江徹さんが100円カッターと鋸で作り方を説明。見本の竹3種類を示して①ー④実演
①鋸で水入れにする大きさまで横に半切断②100円カッターを使って竹を割る カッターの上を軽く竹でたたき③切り取った竹を除く④周りを削り、ドリルで穴をあけ、剪定鋏で角を取る。

子供たちは、面白がっていましたが、大人は家で杯などをやればよいと思われたらしく大勢は説明には集合されませんでした。なお、演題横に飾られた花を一輪挿しにさして帰られた人もありました。

檜の丸太切り・焼印

＜プログラム状況＞

森の片隅の斜面に丸太を乗せる台を4台並べ子供たちに鋸の使い方を説明してから丸太切りに臨んだ。後でネイチャーゲーム班と入れ替わる。年齢が少ない子供は、一人では鋸を使うことができない小さな子供には一緒に鋸を引いて援助。なかには直径15センチと少し太い丸太に、細い木を進めたところ「去年、丸太切りが上手と褒められたので今年は太いものを切りたい」と頑張った子をいました。切り取った檜に焼印を現地で焼付ける。檜の香りが漂って、子供たちと親御さんが喜びました（雨が降るとできない）一人で何回も挑戦する子をいました。

参加者への参加賞：レインコート、手ぬぐい、ストレッチチューブ、カッターナイフの4種



記録者:宮岡 泰久(サポート・トレッキング・グループ)

全体

■参加人数：101人

＜プログラム状況＞

第14回ひろしま「山の日」県民の集い八幡高原会場は、日本山岳会広島支部、広島県山岳連盟、NPO法人西中国山地自然史研究会が企画・協力し、二日間で4つのプログラムを準備しました。

「登山道整備」は、地元から希望のあった猿木峠付近の整備となりました。山に親しんでもらうことを目的とした「初心者への登山教室」を展望が楽しめる高岳で実施し、山麓の「霧ヶ谷湿原の整備」も行いました。高原の自然館前の広場でのイベントは、小中学生を対象とした「ツリークライミング」を初めて企画し、大変好評でした。

参加者の顔ぶれも、おなじみの人もいれば、初めての方もおられます。印象に残ったのは、「八幡高原会場の次は、恐羅漢会場に行き、今日は山の日を楽しんだ」とお話をされたご家族です。

これまで「山の日」をきっかけに、山や八幡高原の自然と触れ合う機会になればと思いをもちながら、実施してきました。

山が持つ恵みを体感し、この環境が維持できるように、山に関わる人を育てる機会にもなりつつある第14回ひろしま「山の日」県民の集い北広島町八幡高原会場であったのではないのでしょうか。

記録者：河野 弥生（西中国山地自然史研究会）

霧ヶ谷湿原 自然再生地保全活動

■参加人数：33人

■担当グループ：西中国山地自然史研究会・公益社団法人日本山岳会広島支部

＜プログラム状況＞

6月6日(土)は前日の雨も止み絶好のコンディションの中、第5回目となる霧ヶ谷湿原自然再生地保全活動を行なった。広島県山岳連盟の登山道整備と合同で開会式を行った後、作業は公益社団法人日本山岳会広島支部26人、西中国山地自然史研究会5人、及び地元2人の計33人が参加しまし

た。

専門家の指導で最下流のノイバラやカラコギカエデの除去を行ない、刈り取った草木は湿原再生地の富栄養化を防ぐ為に軽トラック3台で近くの雑木置き場に搬出しました。この保全活動は霧ヶ谷湿原自然再生地の樹林化を防ぐ意味で大きな役割を果たしています。

我々が手入れをした場所は、回数を重ねるごとに日当たりが良くなり、貴重な湿原の動植物が分布を広げています。これからの季節、八幡高原は動物が一年で最も活発に活動する季節を迎え、カワラナデシコ、トモエソウ、オトギリソウ、マツムシソウなどの植物も美しい花を咲かせる。是非、多くの皆さんに夏の霧ヶ谷湿原を見に来て頂きたいと思っています。



▲湿原整備作業の様子



▲作業を終えて。

記録者：斎 陽（公益社団法人日本山岳会広島支部）

霧ヶ谷湿原～猿木峠周辺 登山道整備（広島県山岳連盟）

■参加人数：17人

＜プログラムの状況＞

広島県山岳連盟は6月6日(土)の北広島町八幡会場に参加し、霧ヶ谷湿原～猿木峠周辺の登山道整備を17人が参加して行ないました。当日9時30分に山麓庵前に集合して、広島県山岳連盟と日本山岳会広島支部合同で北広島会場の開会式を行ない、実行委員会の河野さんが司会し、日本山岳会広島支部の兼森支部長の挨拶・広島県山岳連盟の山田理事長挨拶・西中国山地自然史研究会の前田さんによる「山の日宣言」・安全指導・ストレッチで準備体操をして、各団体毎に作業要領を確認した後、車で現地へ向かいました。

作業は霧ヶ谷湿原登山口～猿木峠隊と猿木峠～臥龍山方面隊の2班に別れ、登山道の下草刈りと倒木や登山道に出た枝打ちを行ないました。作業は、チェーンソーで倒木や枝打ちを行ない、草刈機2台で登山道の両側を刈っていき、残りの人が刈り残した草を刈ったり、刈った枝や草を整理しました。昼食は猿木峠と登山道途中で班毎に食べて、午後後は残りの作業と、猿木峠から掛頭山林道迄の枝打ちを予定の時間迄行ないました。

閉会式は山麓庵前で行ない、高原の自然館の白川学芸員の講評で閉会。新緑の爽やかな天候の下、心地よく汗を流し綺麗に整備された登山道を歩く爽快な気分は一人では味わえない連帯感があります。広島県山岳連盟では、いつもお世話になっている北広島会場の登山道整備を今後とも継続していく予定です。参加頂いた皆様のご協力に感謝しています。



▲霧ヶ谷湿原～猿木峠周辺の登山道整備の様子



▲登山道整備作業に参加した人々

記録者：野島 信隆（一社広島県山岳連盟 副会長）

初心者のための登山講座 ～高岳に登ろう！～

■参加人数：8人

＜プログラムの状況＞

初心者のための登山教室が北広島町の八幡高原会場で開催されました。これは、ひろしま「山の日」県民の集い八幡高原会場のプログラムの一環で、毎年6月の第1日曜日に恒例として行われているものですが、今回は一般参加者5人、高原の自然館からのサポート1人を加え、高岳（海拔1,054m）登頂を実施しました。

予定通り10時に参加者全員が集合し、日本山岳会広島支部の会員2人が引率して高岳登山口に移動し、登山教室に向けた注意とストレッチを実施後、山頂を目指しました。

参加者は登山経験者3人を含めて山登りや自然に興味を持った方々でしたが、天候に恵まれたこともあって、新緑を楽しみながら賑やかな山行となりました。登山好きな方が多かったこともあり歩行は順調で、稜線で2度休息後、予定通り登頂することができました。

昼食後、講師から山の歩き方や登山の装備についてアドバイスがありましたが、参加メンバーから質問もあって、新たな発見があったように思われます。

整備された高岳頂上の眺望は素晴らしく、しばらく休憩して下山しましたが、登山道もよく整備されており、安全で楽しい登山教室が実施できました。



▲登山講座の様子



▲高岳山頂での記念写真

記録者：近藤 道明（公益社団法人日本山岳会広島支部 登山講座委員会）

ジュニア・ツリークライミング

■参加人数：45人（対象：小・中学生）

＜プログラムの状況＞

6月7日(日)は、10時から山麓庵前の広場で初心者の為の登山教室とジュニア・ツリークライミングの合同開会式を行ないました。ジュニア・ツリークライミングは山麓庵前の芝生広場で行われ、公益社団法人日本山岳会広島支部のスタッフ6人が、前日から準備を行ないました。

当日はチーフリーダーの指揮の下、5人のサポートスタッフでロープ・バランス渡りとロープ・滑車ダウンを行なった。ロープ・バランス渡りは、8m間の2本のコナラの木に地上0.6mと地上1.5mに上下2本のロープを張り、上のロープを掴み

下のロープを、バランスを取りながら渡るものである。

またロープ・滑車ダウンは、約18m間の2本のコナラの大木に、傾斜を付けたロープを約6mの高さから滑車ダウンするものです。

事前の参加申し込みは6人でしたが、当日は地元の子供や小学校の先生方、また通りかかった親子連れの人たちが集まり、15人の子供たちがヘルメットとハーネスを装着し、サポート隊の確保で樹上6mのスタート位置までよじ登り、滑車ダウンに挑戦しました。

午後からはカキツバタ祭り帰りの子供達が大勢集まり、5歳の最年少の坊やも参加しました。

合計で45人が大喜びで挑戦して、午後3時に大盛況の内に終了しました。



記録者：斎 陽（公益社団法人日本山岳会広島支部）

全体

■参加人数：250人

<プログラム状況>

6月7日（日）、尾道市御調町の尾道ふれあいの里で第14回ひろしま「山の日」県民の集い尾道市会場に約250人が参加しました。「山の日」は、ひろしまの森づくり県民税を活用した事業で、里山に入るきっかけづくりを目的とし、尾道では今年で4回目の開催となりました。



▲御調町の山の風景



▲開会式 山の日宣言



▲海を味わうランチタイムのようす

記録者：金田 恭子（実行委員会 事務局）

尾道ふれあいの里 10周年ウォーキング大会

■参加人数：100人

<プログラム状況>

岩倉の人水コース7kmに、ケアスタッフ含め約100人が参加しました。この日は、すがすがしい好天に恵まれ、アップダウンが激しいコースだったため、7キロコースはかなり厳しいと予想していましたが、女性の積極的な参加が目立ち、体調が悪くなった人はいませんでした。人水岩倉の水が境内から湧き出ている岩倉寺で休憩をし、小川副委員長がクイズを出してゲームも楽しみました。コースの途中に副委員長の歴史ガイドやクイズもあり、単調にならないよう工夫されたプログラムであったため、気分転換をしながら歩くことができたようでした。今年のメインとなるプログラムでしたが、全員笑顔で完歩することができて、なによりでした。



▲ウォーキングの様子



▲時々、ガイドやクイズも

里山の手入れと樹木の診断

■参加人数：30人

＜プログラムの状況＞

30人の参加者とともに、樹木の診断からスタートしました。昨年、三原市、尾道市と続けて倒木事故が発生し、危険木に対する関心が大変高くなっています。今回、倒木に繋がる可能性のある危険木の診断について、精密診断機械の「ドクターウッズ」を現地の松を材料にして実演しました。参加者の皆さんは関心があるようすで、調査方法や機械の金額など多くの質問がありました。

続いて山の中に入り、枯れた枝や重なった枝の処理などを行い、樹木が健全に生育できる環境づくりを皆で行いました。最後に「今後も樹木に関心を持って守っていくようにしましょう」と話してプログラムを終了しました。



▲樹木の診断▼



▲子供による里山の手入れ



▲女性による里山の手入れ

森の中のネイチャーゲーム

■参加人数：50人

＜プログラムの状況＞

天候に恵まれ、暑過ぎることもなく行事を進めることができました。現地はゴミもなく下刈り等の整備がされていて、幼児や低学年を連れた参加者が多くいましたが、足元もよく安全に歩行する事が出来たので、会場への移動がスムーズでした。プログラムについては、直射日光と水分補給に気を付けてゆったりと進めました。

＜音いくつ＞聴覚を集中させて、自然の音に気づく。

＜動物交差点＞生きものの生態についての興味をもつ、コミュニケーション。

＜カモフラージュ＞観察力を高める。生き物の知恵。

＜めざせ人探偵＞木の個性に気づく、観察力を高める。

以上4つのアクティビティを実施しました。

晴天の中での活動だったので、木陰での説明や余裕を持った進行ができ、低学年の参加者も集中力が途切れずに最後まで楽しめました。幼児と小学生の保護者等、50人の参加で楽しく過ごすことができました。



▲ネイチャーゲームの様子



▲ネイチャーゲームでの作品

クラフト教室

■参加人数：40人

＜プログラムの状況＞

屋内ゲートボール場で、自然木を使つてのクラフト教室を開催しました。受付に、完成した動物クラフトを並べて置き、それぞれのモデルの中から作りたいクラフトを決めてもらい、材料を大きさ別の部材置き場から調達して、ボンドや竹ひごを使って接着し組み立てる手順でクラフトを作ってもらいました。40人の参加があり、講師三人がクラフトの材料選び、部材の接合、電動ドリルでの穴あけ作業、接着作業の指導をしました。ヒノキやさくらの木を輪切りして台座にし、背景にドングリ等の木の実や

小枝を使って樹木に見立て、フクロウ等を置いて森や里山の情景を表現した作品を作りました。決して同じ作品はなく、森の情景が無限大に広がりました。また、クラフト教室のプログラム参加者へのサプライズとして、カブトムシの幼虫がプレゼントされました。



▲思い思いにクラフトづくり



▲わたしも挑戦



▲カブトムシの幼虫プレゼント

「神楽門前湯治村」環境整備

■参加人数：262人

＜プログラムの状況＞

グリーン倶楽部と共催で神楽門前湯治村及び高田IC近くにある北の関宿でボランティア活動を実施しました。環境整備活動は、今年で19回目を迎えます。午前10時に神楽門前湯治村の駐車場で開会行事を行い、それぞれの班に分かれて、植栽の中の草取りや、ゴミ拾いなどを行い、神楽門前湯治村の温泉で汗を流していただき、大変ご好評をいただいております「桑田の庄」でヤマメのつかみ取りや神楽鑑賞、地元食材を使った手造り料理などを堪能していただきました。



▲環境整備作業（上と中）とヤマメのつかみ取り（下）

林業体験

■参加人数：33人

＜プログラムの状況＞

開会式の後、安芸北森林の方から、山仕事の話をしていただき、山を守り育てることの大切さや、林業が置かれている厳しい現状、わかりやすく説明していただきました。次に山で使用する道具の説明を受けた後、会場を山の中に移して、巣箱かけと枝打ち体験や、丸太切りを体験し、最後にみんなでシイタケの植菌作業を体験しました。

参加した子供たちは、ノコギリを持つのも初めてという子供も多く、最後まであきらめずに丸太を切って、とてもいい顔をして満足げでした。来年もぜひ参加したいと言われ、スタッフ一同、次回の企画に今から思いを巡らせています。



記録：土井 文哉（安芸高田市会場実行委員会）

全体

■参加人数：600人

＜プログラムの状況＞

第14回ひろしま「山の日」県民の集い『森カフェ in あきおおた』は安芸太田町大字横川 恐羅漢エコロジーキャンプ場をサテライト会場として開催しました。当日は天候にも恵まれ約600人の方々にご来場いただき、森林セラピー基地＝安芸太田町ならではの森の癒しメニューを用意し、澄んだ空気、自然に育まれた樹林、美しい景観の中でゆっくりとした時間を過ごしていただきました。

カフェブースでは、薬草茶とダッチオーブンを使ったアウトドア料理の他、恐羅漢 カヤバタグレンデ上部での山頂カフェは、当日リフト運行を行い数多くの方々に、美しい山々を眺めながら楽しんでいただくことができました。また、森林セラピー体験コーナーでは、プチ森林セラピー体験や子どもを対象としたアースウォーク（森遊び）の他、森林ヨガ、ハンモックでのんびりお昼寝などのメニューを周辺の森林セラピーコースや森林浴スペースで楽しまれ心身共にリフレッシュされた様子でした。

森のクラフトコーナーでは、森の香りを使った、自然にも体にも優しい虫除けスプレー作り、地元間伐材を活用したガーデンスツール（木工品）作りを楽しんでいただきました。森フェスでは、リフレクソロジー（足裏マッサージ）、オートキャンプ教室、森のコンサート、森のフリーマーケットなど豊かな森林を活用したいろいろなメニューが行われました。

今回の会場では、自然の中でのくつろぎ、体験、静かな空間、コンサートとの調和、木材の活用と幅広いメニューを実施し多くの方に参加していただいたことは来年の山の日イベントにつながる内容であったと思います。



▲開会式 佐々木実行委員長 挨拶

山頂カフェ



森林セラピー体験コーナー

アースウォーク体験



森林ヨガ



記録：栗栖 俊生（安芸太田町産業振興課）

ハンモックでお昼寝



森のクラフトコーナー

ガーデンスツール作り



森フェス

リフレクソロジー



森のコンサート



オートキャンプ教室



森のフリマ・かんな削りプール



実行委員会（全体）

■アドバイザー

城納 一昭 元・広島県副知事 JA 広島中央会顧問
 森本 竹一 元・吉和村村長
 中越 信和 広島大学大学院 国際協力研究科 教授
 菅原 基晴 広島県農林水産局 森林保全課 課長
 神川 勇人 広島県環境県民局 自然環境課 課長
 吉野 栄作 (公社)広島県みどり推進機構 事務局長
 岡谷 義則 中国新聞社 代表取締役社長
 青木 暢之 (株)中国放送 代表取締役社長

■会長

伊藤 利彦 愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 幹事 元・広島市収入役

■副会長

奎谷 正樹 (株)純正食品マルシマ 代表取締役社長
 内海 康仁 光和物産株式会社 代表取締役社長
 京才 昭 (一社)広島県山岳連盟 会長
 瀬川 千代子 ひろしま緑づくりインフォメーションセンター 代表
 前垣 壽男 西条・山と水の環境機構 理事長
 箕田 英紀 三次市酒屋地区自治連合会会長、エコパークの森づくり副実行委員長
 株式会社有斐園 取締役会長
 中国木材株式会社 代表取締役会長
 NPO 法人森のバイオマス研究会 監事

■委員

赤木 茂 光和物産(株) 取締役総務部長
 秋山 浩三 広島県シェアリングネイチャー協会 事務局長
 斎 陽 (公社)日本山岳会広島支部 自然環境委員会副委員長
 井上 年光 阿品の森サポータークラブ
 岡本 一彦 三次市産業部農政課 課長
 奥野 悟 (公財)オイスカ広島県支部 事務局長
 小田 里子 (一社)広島県山岳連盟 普及部 部長
 鎌田 博 広島市森林公園 (第一ビルサービス森林公園 園長)
 栗栖 俊生 安芸太田町 産業振興課
 近藤 紘史 西中国山地自然史研究会 代表
 櫻井 充弘 (一財)もみのき森林公園協会理事長
 ひろしま人と樹の会 事務局長
 エコロジー研究会ひろしま
 柴田 壮太郎 安芸高田市 産業振興部 部長
 清水 勝 株式会社中国放送 常務取締役
 仙田 信吾 (一財)中央森林公園協会 事務局長
 谷村 恭佐 大竹市 産業振興課 課長
 中川 英也 広島県森林インストラクター連絡協議会
 中嶋 剛二 (一社)広島県山岳連盟副会長
 野島 信隆 (公社)日本山岳会広島支部 副支部長
 NPO 法人ゆあーず「食」未来研究所 理事長
 野本 利夫 板橋さとやま倶楽部 理事長
 林 高正 中国木材株式会社 総務課長
 林 尚哉 中国新聞社 営業事業本部
 平野 公穂 事業出版センター 部次長
 福永 やす子 (一社)広島県山岳連盟
 船本 昌義 西条・山と水の環境機構 事務局
 宮岡 泰久 サポート・トレッキング・グループ 会長
 山田 雅昭 (一社)広島県山岳連盟 副会長兼理事長

■監事

梅田 斉 (一財)もみのき森林公園協会 事務局長

■事務局長(副委員長兼任)

瀬川 千代子 ひろしま緑づくりインフォメーションセンター 代表

■事務局(委員兼任)

兼森 志郎 (公社)日本山岳会広島支部 支部長
 畝崎 辰登 西条・山と水の環境機構 事務局

各会場実行委員会

□大竹市会場実行委員会

■実行委員長

小城 林勲 小城材木店 会長

■副委員長

田中 弘明 栗谷自治会連合会 会長

■事務局長

中川 英也 大竹市 産業振興課 課長

□東広島市会場実行委員会

■実行委員長

島 靖英 西条酒造協会 理事(白牡丹酒造)

■副委員長

浅野 敏久 広島大学大学院総合科学研究科 教授

■運営委員長

佐藤 高晴 広島大学大学院総合科学研究科 准教授

■運営副委員長

松浦 尚樹 賀茂地方森林組合 憩いの森公園施設長

■事務局長

船本 昌義 西条・山と水の環境機構 事務局

□廿日市市会場実行委員会

■実行委員長

櫻井 充弘 (一財)もみのき森林公園協会 理事長

■副委員長

井上 年光 阿品の森サポータークラブ 会長

■事務局長

梅田 斉 (一財)もみのき森林公園協会 事務局長

□広島市（広島市森林公園）会場実行委員会

■実行委員長

鎌田 博 広島市森林公園 園長

■副委員長

富士澤 隆 広島市森林公園 副園長

■運営委員長

見勢井 誠 もりメイト倶楽部 Hiroshima 理事長

■運営副委員長

桑原 清二 フォレストクラブ森守

■事務局長

桑田 莊一郎 広島市森林公園

□広島市（広島県緑化センター）会場実行委員会

■実行委員長

正本 大 広島県緑化センター 管理責任者

■副委員長

山根 道廣 広島県緑化センター

■運営委員長

廣瀬 健 広島県グリーンサポート連絡会 会長

■事務局長

行正 高成 広島県緑化センター

□三原市会場実行委員会

■実行委員長

福島 偉人 株式会社有斐園 取締役会長

■副委員長

山口 秀充 三原市経済部 部長

■運営委員長

榊宗 正則 (特非)森のお猿さん

■運営副委員長

森正 宏征 三原市経済部農林水産課 課長

山下 三喜男 三原市シルバー人材センター本郷支所長

■事務局長

谷村 恭佐 (一財)中央森林公園協会 事務局長

□庄原市会場実行委員会

■実行委員長

八谷 文策 (特非)森のバイオマス研究会 監事

■副委員長

林 高正 (特非)板橋さとやま倶楽部 理事長

■運営委員長

小笠原 六紘 (特非)板橋さとやま倶楽部

■事務局長

表 康信 (特非)板橋さとやま倶楽部

□福山市会場実行委員会

■実行委員長

内海 康仁 光和物産(株) 取締役社長

■副委員長

赤木 茂 光和物産(株) 取締役総務部長

■運営委員長

繁田 健司 光和物産株式会社

■事務局長

赤木 茂 光和物産(株) 取締役総務部長

□三次市会場実行委員会

■実行委員長

箕田 英紀 三次市酒屋地区自治連合会 会長

■事務局長

中廣 晋 三次市農政課 課長

□呉市会場実行委員会

■実行委員長

堀川 保幸 中国木材(株) 代表取締役会長

■副委員長

佐藤 一教 三菱日立パワーシステムズ・エコークラブグリーン委員会理事

■運営委員長

宮岡 泰久 サポート・トレッキング・グループ 会長

■事務局長

林 尚哉 中国木材株式会社 総務課長

□北広島町八幡高原会場実行委員会

■実行委員長

近藤 紘史 (特非)西中国山地自然史研究会 理事長

■事務局長

河野 弥生 (特非)西中国山地自然史研究会

□尾道市会場実行委員会

■実行委員長

杵谷 正樹 株式会社純正食品マルシマ
代表取締役社長

■副委員長

小川 健太郎 尾三地方森林組合 代表理事組合長

■事務局長

朝倉 智佳史 尾道市産業部農林水産課 課長

□安芸高田市会場実行委員会

■実行委員長

清水 勝 安芸高田市産業振興部 部長

■副委員長

溝本 郁夫 (㈱神楽門前湯治村 代表取締役社長

■運営委員長

清水 一彦 有限会社桑田の庄 代表取締役

■運営副委員長

佐々木 靖 安芸高田市産業振興部 農林水産課長

■事務局長

土井 文哉 安芸高田市産業振興部 農林水産課

□安芸太田町会場実行委員会

■実行委員長

佐々木 徹 太田川森林組合 代表理事組合長

■副委員長

大倉 啓司 安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会

■事務局長

田中 敬二 安芸太田町産業振興課 課長

※以上、2015年6月7日時点での委員及び所属等を記載しております。
たくさんの方々に協力していただき行事を行なうことができました。
心より感謝申し上げます。

ひろしま「山の日」県民の集いの歩み

1. 「山の日」のきっかけ

森林ボランティアに関わる人たちが全国から集まり、第7回森林と市民を結ぶ全国の集い（時期：2002年2月9日～11日 開催場所：広島県東広島市とその周辺 主催：第7回森林と市民を結ぶ県民の集い実行委員会他 総参加者：2,294人）が開催されました。その初日のシンポジウムにおいて、パネリストの1人から「山の日」をつくろうとの提案がされました。

提案を受け、分科会等での議論等を経て、集いの締めくくりに、私たちからのメッセージとし「6月の第一日曜日を山の日として、その日は山に関わろう」というメッセージを発信しました。

2. ひろしま「山の日」県民の集いの積み重ね

山の大切さをできるだけ多くの人たちに知っていただきたい。そのきっかけづくりとしてひろしま「山の日」県民の集いを広島県内各地の会場で開催しています。第1回～4回までは、広島県内1ヶ所の会場で開催していました。第5回以降、・メイン会場と・サテライト会場方式として県内数ヶ所で同時開催、あわせて1万人が参加する行事になっています。

回数	日時	場所	参加者（人）	主催
1	2002年6月1日（土） ・2日（日）	東広島市	1,500	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
2	2003年6月7日（土） ・8日（日）	廿日市市	3,000	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
3	2004年6月5日（土） ・6日（日）	広島市	2,400	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
4	2005年10月15日（土） ・16日（日）	三原市	5,000	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、平成17年度広島県植樹祭実行委員会
5	2006年10月22日（日） ※全国育樹祭と連携	○メイン会場：庄原市 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市（2）、三原市	11,700	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社
6	2007年10月20日（土） ・21日（日）	○メイン会場：福山市 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市（2）、三原市、庄原市	10,110	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社
7	2008年10月18日（土） ・19日（日）	○メイン会場：三次市 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市、三原市、庄原市、福山市	10,000	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社

8	2009 年 6 月 6 日 (土) ・ 7 日 (日)	○メイン会場：呉市 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市 (2)、三原市、庄原市、福山市、三次市	7,000	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
9	2010 年 6 月 5 日 (土) ・ 6 日 (日)	○メイン会場：北広島町 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市 (2)、三原市、庄原市、福山市、三次市、呉市	8,600	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
10	2011 年 6 月 4 日 (土) ・ 5 日 (日) ※第 10 回記念行事	広島市 (記念講演会) 東広島市、廿日市市、広島市 (2)、三原市、庄原市、福山市、三次市、呉市、北広島町	11,600	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
11	2012 年 6 月 2 日 (土) ・ 3 日 (日)	○メイン会場：尾道市 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市 (2)、三原市、庄原市、福山市、三次市、呉市、北広島町	7,000 ※朝、雨	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
12	2013 年 6 月 1 日 (土) ・ 2 日	○メイン会場：安芸高田市 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市 (2)、三原市、庄原市、福山市、三次市、呉市、北広島町、尾道市	3,200 ※終日、雨天	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
13	2014 年 5 月 31 日 (土) ・ 6 月 1 日 (日)	○メイン会場：安芸太田町 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市 (2)、三原市、庄原市、福山市、三次市、呉市、北広島町、尾道市、安芸高田市	9,000	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
14	2015 年 6 月 6 日 (土) ・ 6 月 7 日 (日)	○メイン会場：大竹市 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市 (2)、三原市、庄原市、福山市、三次市 (2)、呉市、北広島町、尾道市、安芸高田市、安芸太田町	10,540	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送

※但し、参加者は 10 人台で計数しています。

第 14 回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

- 発行日 2015 年 8 月 11 日
- 発行・編集 ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
- 監修 中越 信和（広島大学大学院 教授）
- 事務局 〒730-0041 広島市中区小町 2-28-703
TEL:082-909-7662 FAX:082-248-3586
e-mail:info@yamanohi.com
-



- 山の日ロゴ: 山と人との調和をモチーフにデザイン開発。
基本カラーはエコグリーン。
デザインは木原実行さん。



一般財団法人
セブン-イレブン記念財団

(この活動は、2015年度セブン-イレブン記念財団の助成を受けています。)



「緑の募金」助成事業

(この行事は、「ひろしまの
森づくり県民税」を活用
して開催しています。)

ひろしまの森づくりキャラクター
モーリー

